

都道府県別賞一等

私の病気と医療保険

愛媛県 西条市立西条北中学校 一学年

指宿 穂乃果

私は小学六年生の時、もやもや病という病気になった。初めて聞くその病気の名前に私はこれからどうなってしまうのか不安でたまらない反面、ほっとしていた。

初めて病気の症状が出たのは五年生の時だった。体育の授業が終わった後、右手が動かなくなり麻痺してしまったのである。それから症状は進行していき、朝起きられなくなる程の頭痛が私を苦しめていった。

その苦しかった原因が分かったことでほっとはしたが、手術をするしかないという事実には私は怖くてたまらなかった。

手術は脳のバイパス手術というもので、大変な時間がかかり、大がかりなものになるらしくますます不安になったが、家族の皆や友達、先生達がはげましてくれたので頑張ろうという気持ちになった。中でも、手術する直前にクラスの皆から貰った色紙には一番励まされたし勇気をもらった。

いよいよ入院、手術ということになり、私は入院バッグに色紙も入れて、手術に挑むこととなった。コロナ禍ということもあり、お母さんは手術室まで一緒にいけないのでエレベーターでお母さんとお別れした。その瞬間すごく心細かった。

手術室に入ると、すぐに麻酔をされ、いつ眠ってしまったのか分からない位すぐに眠ってしまった。目が覚めた時にはもう手術は無事終わっていた。九時間に及ぶ大手術だった。

手術が終わって病室に戻ってからも、コロナ対策で付き添いはダメだと言われてしまい、私は一人だった。ずっと泣いていたら見かねた先生が特別に付き添いを認めてくれることとなり、お母さんがずっと一緒に居てくれるようになった。お母さんが来てからは泣くこともなくなり、日に日に私は元気になっていき、私は二十日で退院できることとなった。

二十日間の入院では、治療費や手術代の他にも一日の病室代や食事代や買い物代といったように、さまざまな費用もかかってくる。そんな時役立ったのが“医療保険”である。

私はこれまで医療保険や生命保険といったものが一体どういうものなのか、どんな時に役に立つのか知らなかった。今回自分が病気になり、手術をしたことによって医療保険とはどんなものなのかを、知ることができた。

第59回中学生作文コンクール

保険にもさまざまな種類があり、仕事ができなくなってもその期間の生活費も保障してくれるものまである。

病気になると不安でたまらなくなる。自分だけでなく、支えてくれる家族も不安になる。その不安を少しでも和らげてくれるのが医療保険や生命保険の存在だと思う。

病気にならないのが一番だけど、人生いつ何があるのか分からないので、やはり備えは必要だと思う。

私の病気はまだ完治はしていないので、これからも医療保険と共に病気に立ち向かっていこうと思う。